

普及活動の成果

課 題 名	加工農産物の産地育成と6次産業化の推進	振 興 局 名	五島振興局
活 動 対 象	五島地域加工業務用産地育成協議会、JA ごとうかんころ出荷者、農業生産法人、民間業者（かんころ餅業者）、加工農産物生産者	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

【対象の概要】

五島地域では、たかな、きゅうり、レタス等加工業務用野菜の生産が行われており、平成25年度に活動対象である五島地域加工業務用産地育成協議会が設立され、加工用野菜の生産・産地拡大に向けた支援してきた。平成28年度からは物産振興協会・商工会などの加工関連団体にも参加してもらい、生産・加工を支援する協議会となった。

【課題設定の背景】

農業者の所得向上のためには加工業務用農産物の取組推進も必要であり、対策として6次産業化の取組や農産物の付加価値向上、安定生産等が有効な手段となる。協議会において生産産地と実需者との連携促進や各種振興施策の推進等を行なうことで、産地拡大や6次産業化に取り組む経営体の育成、安定的な出荷先の確保等により、農業者所得向上へ繋がると考えられる。

【活動目標】

加工部会の新商品開発支援。生産部会の生産支援。個別の加工農産物生産者の6次産業化支援。

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

五島地域加工業務用産地育成協議会

（構 成 員）五島振興局（農業振興普及課、地域づくり推進課、林務課）、五島市（農業振興課、観光物産課、農業委員会）、新上五島町（農林課、観光商工課）、農業委員会、五島市商工会、福江商工会議所、新上五島町商工会、五島市物産振興協会、新上五島町観光物産協会、ごとう農協農産園芸部、五島農業生産法人会、五島の新たな特産物を作る会

（事 務 局）五島振興局農業振興普及課

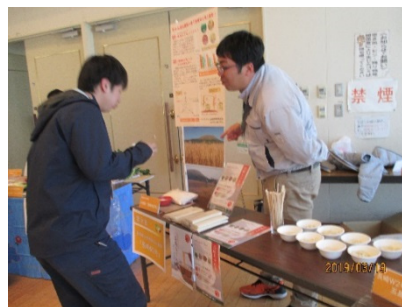
（活動内容）既存加工業務用野菜の産地拡大、新規加工業務用野菜の導入検討、6次産業化に取り組む経営体支援、生産現場と実需者とのマッチング

【活動経過】

- 加工部会の新商品開発支援として（1）トマト冷凍ピューレの試作・需要調査、（2）地元高校や専門家と連携したかんころ・干し大根の新メニュー開発、（3）かんころ粉末の検討・試作、（4）長崎産小麦「長崎W2号」を使用したうどんの試作及び関係機関との情報共有、（5）干しだいこんの高付加価値商品の開発支援を実施した。また試作した製品やメニューについては、3月に「五島産農産物を活用した新たな食材・レシピ展示発表会（以下、食材・レシピ展示会）」を開催し、島内飲食店・食品製造業者へ紹介した。
- 産地部会の生産支援として（1）たかな及びしょうがの栽培講習会、（2）加工用だいこんの新品種展示圃試験および農産園芸課技術普及班と連携した経営指標の作成検討、（3）とうがらしの栽培管理指導及び取引先業者との生産拡大に向けた打合せ、（4）かんしょの加工原料用利用推進の検討、（5）にんにくのオーリーブオイル漬けに使用する原料にんにくの確保および栽培支援を実施した。
- 6次産業化支援として、（1）長崎四季畑への応募支援、（2）6次産業化に関する地区セミナーの開催や個別相談への専門家派遣・相談対応を実施した。



＜五島海陽高校のかんころレシピ検討＞



＜「食材・レシピ展示会」での「長崎W2号」の紹介＞

【普及活動の成果】

1. 加工部会の新商品開発支援について

- (1) トマト冷凍ピューレは「五島ルビー冷凍ピューレ」として島外業者へ委託製造し商品化が図られた。
- (2) かんころ・干し大根の新メニュー開発は専門家派遣を3回実施した結果レシピ案が完成した。
- (3) かんころ粉末は乾燥行程等を検討した結果、島内での粉末化が可能であることがわかった。
- (4) 「長崎W2号」のうどんへの活用について製造業者等と協議した結果、需要量や要望について関係者内で情報の共有化ができた。最終的に2業者で「長崎W2号」を使用したうどんを試作した。
- (5) 干し大根の高付加価値商品の試作品が完成した。

上記の商品やメニューを「食材・レシピ展示会」で紹介した結果、7業者から試作等の要望があった。

2. 産地部会の生産支援について

- (1) たかなは台風被害で一部再定植したが概ね順調に出荷できた。しょうがは夏場の干ばつ等により生育が悪く前年よりも収量が減少したが、種しょうが保存のため保温庫を導入し、安定保存が可能となった。
- (2) 加工用だいこんの新品種展示圃の結果、新品種「サラホホワイト」が収量・品質ともに優れる結果となった。経営指標は谷川農場をモデルとして、法人経営5haで作成することとした。
- (3) とうがらしは取引先業者と打合せし、取引量の増加のため商品開発を進めることになった。
- (4) かんしょは生産者・食品事業者等との加工業務用利用についての先進地視察や新品種等について検討した結果、平成31年度に品種試験や試作を行なうこととなった。
- (5) にんにくのオリーブオイル漬けは「ほっこり島にんにく」として8月に上五島を中心に販売された。

3. 6次産業化支援について

- (1) JAごとうの「ごとうさん」シリーズ3商品を長崎四季畑へ応募したが落選となった。
- (2) かんしょ栽培を行う生産法人による6次産業化の計画が認定された。また、6次化取組みにより1商品の販売が開始されたほか、新たな商品開発を検討する意向者の把握が出来た。

【対象の声】

- ・加工用だいこんの新品種試験では良い品種を知ることができたので、来年はぜひ新しい品種を栽培したい。
- ・商品開発では熱心に支援していただいたので、今後ともお願いしたい。

【今後の課題】

1. 加工部会の新商品開発について、需要調査で把握した意向を元に他の新商品の開発支援や具体的な販路の検討を実施する必要がある。
2. 産地部会の生産支援について、農家の高齢化、新規就農者が確保できない状況が続いており、加工業務用野菜の栽培面積が減少している。安定的な所得の確保につながるためにも、1戸あたりの栽培面積拡大や労力軽減に向けた対策を支援していく必要がある。
3. 6次産業化支援では、落選した商品のブラッシュアップに向けた専門家派遣等による支援が必要である。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

- ・最終目的である生産者の所得向上まで到達していないことから、高付加価値化につながる商品開発や販売方法の検討、生産体制の確立等が今後必要である。

【発表・参考資料】